宇都窯跡（うとがまあと）

【所　在　地】姶良市姶良町鍋倉1376番地2
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】平成１４年４月２３日

宇都窯跡全景

島津義弘は文禄・慶長の役の際，朝鮮の陶工金海（星山中次）等を連れ帰り，窯を開かせ，茶道具を中心とする陶器を焼かせた。これが薩摩焼の始まりであり，宇都窯は，藩御用の竪野窯系（たてのがまけい）では最古の窯である。

宇都窯で焼かれた製品は，京都や江戸において，薩摩焼の名前を確立し，後世においては，加治木町の御里窯の製品とともに「古帖佐焼」と呼ばれ，珍重された。

窯構造としては単室傾斜窯（たんしつけいしゃがま）が知られていたが，別なタイプの窯が重なりあっていることが最近の調査によって判明した。

宇都窯跡は薩摩焼初期の窯構造を理解する上で重要な価値を有するものである。

宇都窯跡